

スーパーアグリシステム

日本SPF豚研究会会長 山本孝史

倉持信之氏（日本SPF豚協会関東甲信越地区選出総代）が、平成9年11月、社団法人大日本農会より緑白授有功章を授与されました。養豚と耕種農業の複合による農業振興の功績によるものです。氏の経営する山西牧場は、コンベンショナル母豚200頭を一貫飼育する農場として1973年に開設されました。その後1992年4月、SPF母豚500頭の一貫農場を増設し、同時にスラリーの無臭液肥化に成功しました。これは、「ヒューマス」という商品名で市販されている腐植土を飼料や飲水に添加することにより可能となったものです。氏はこの液肥を近隣の耕種農家の協力を得てキャベツ圃場へ試験的に散布したところ好結果を得たことから、耕種農家との連携を拡大し、この地域複合とも呼ぶべき営農形態をスーパーアグリシステムと命名して商標登録をしました。耕種農家にはバキュームカーで運んで散布していますが、1993年9月に8軒だった会員耕種農家が、わずか3年で140軒と急増したことは、この液肥の有用性を何よりも雄弁に物語っています。筆者は、白菜を生のまま試食してみました。その甘さにこれが白菜かと驚きを禁じ得ませんでした。排泄物を液肥に変えて耕種農家に還元し、耕種農家は高付加価値の野菜を生産するという循環を見事に成功させた本システムは、わが国農業の将来像を暗示しているように思われます。

〈液肥のできるまで〉

